

果樹を加害するチャバネアオカメムシの多発生が続いています

果樹園内への飛来に注意して下さい！

[発令の内容]

作物名 : 果樹類 (ナシ, カキ, リンゴ, ブドウ等)

害虫名 : 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)

発生量 : 多い

発生地域: 県下全域

[発令の根拠]

7月上旬現在,果樹園に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は,笠間市及びかすみがうら市で平年より多い(図1,図2)。7月第1半旬までのチャバネアオカメムシ総誘殺数は,笠間市で過去11年中3位,かすみがうら市で過去11年中1位である。一部のナシ及びブドウ圃場で,チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。本年のスギやヒノキの花粉飛散量は平年より少なかったため,カメムシ類の主要な餌となるスギやヒノキ球果の結実数も少ない。球果数が少ない場合は,餌不足になるため,今後果樹園への飛来数が増加する恐れがある。

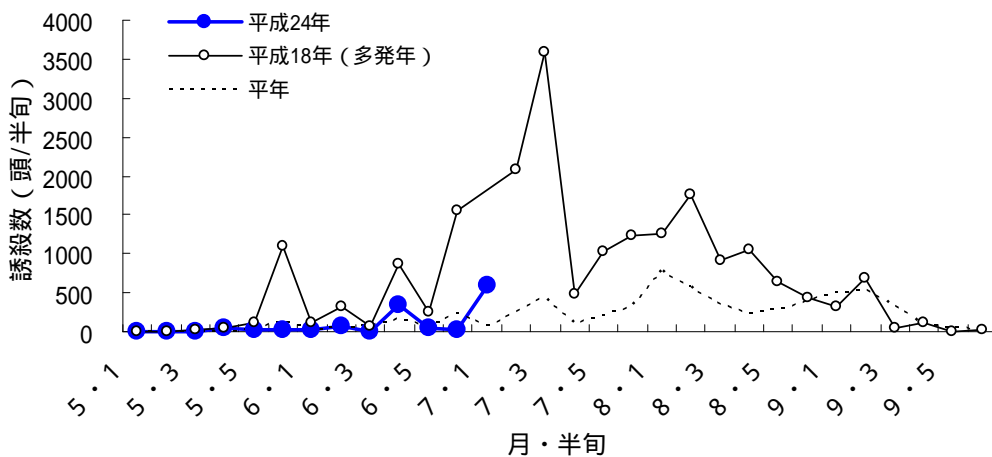


図1 チャバネアオカメムシの予察灯 (笠間市, ナシ園) への誘殺数

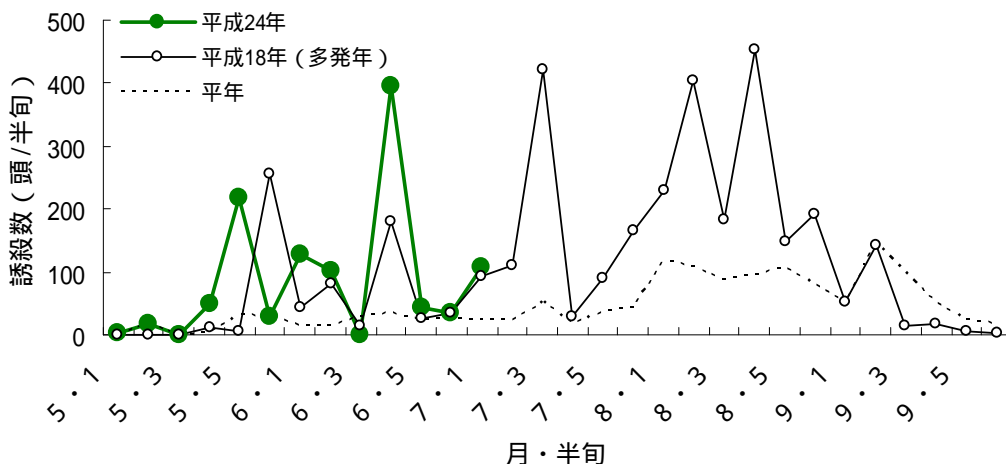


図2 チャバネアオカメムシの予察灯 (かすみがうら市, ナシ園) への誘殺数

[防除対策]

夜温が高いと活動が活発になり、果樹園への飛来も多くなるので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。

果樹園への飛来が多い場合は、参考防除例や下表を参考に追加の薬剤防除を行う。

各薬剤とも、直接虫体にかかれば殺虫効果は高く、効果の持続期間はネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系、有機ケイ素系薬剤で5～10日程度、有機リン系薬剤で2～3日程度である。また、ネオニコチノイド系薬剤は、忌避効果の持続時間が長いため、長期間にわたり飛来するカメムシ類に効果的である。

合成ピレスロイド系薬剤は、カメムシ類に対して効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招く恐れがあるので注意する。

薬剤を散布する場合は必ず農薬のラベルを確認し、農薬の使用基準を守るとともに周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

表 カメムシ類に登録のある主な薬剤（平成24年7月1日現在）

系統名	薬剤名	ナシ	カキ	リンゴ	ブドウ
ネコチノイド	アクタラ顆粒水溶剤				
	アドマイヤー水和剤				
	アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤				
	バリアード顆粒水和剤				
	ダントツ水溶剤				
合成ピレスロイド	スカウトフロアブル				
	テルスターフロアブル				
	アグロスリン水和剤 ロディー水和剤				
有機ケイ素	MR. ジョーカー水和剤				
有機リン	スミチオン水和剤40				
その他	キラップフロアブル				

注) ブドウは栽培状況により、果粉溶脱や汚れの恐れがあるため、農薬ラベルに書かれた使用上の注意事項及び使用方法を必ず確認する

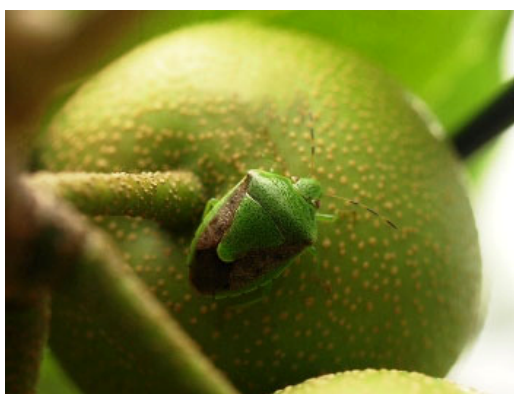


写真1 ナシを加害するチャバネアオカメムシ



写真2 カメムシ類に加害されたリンゴ果実